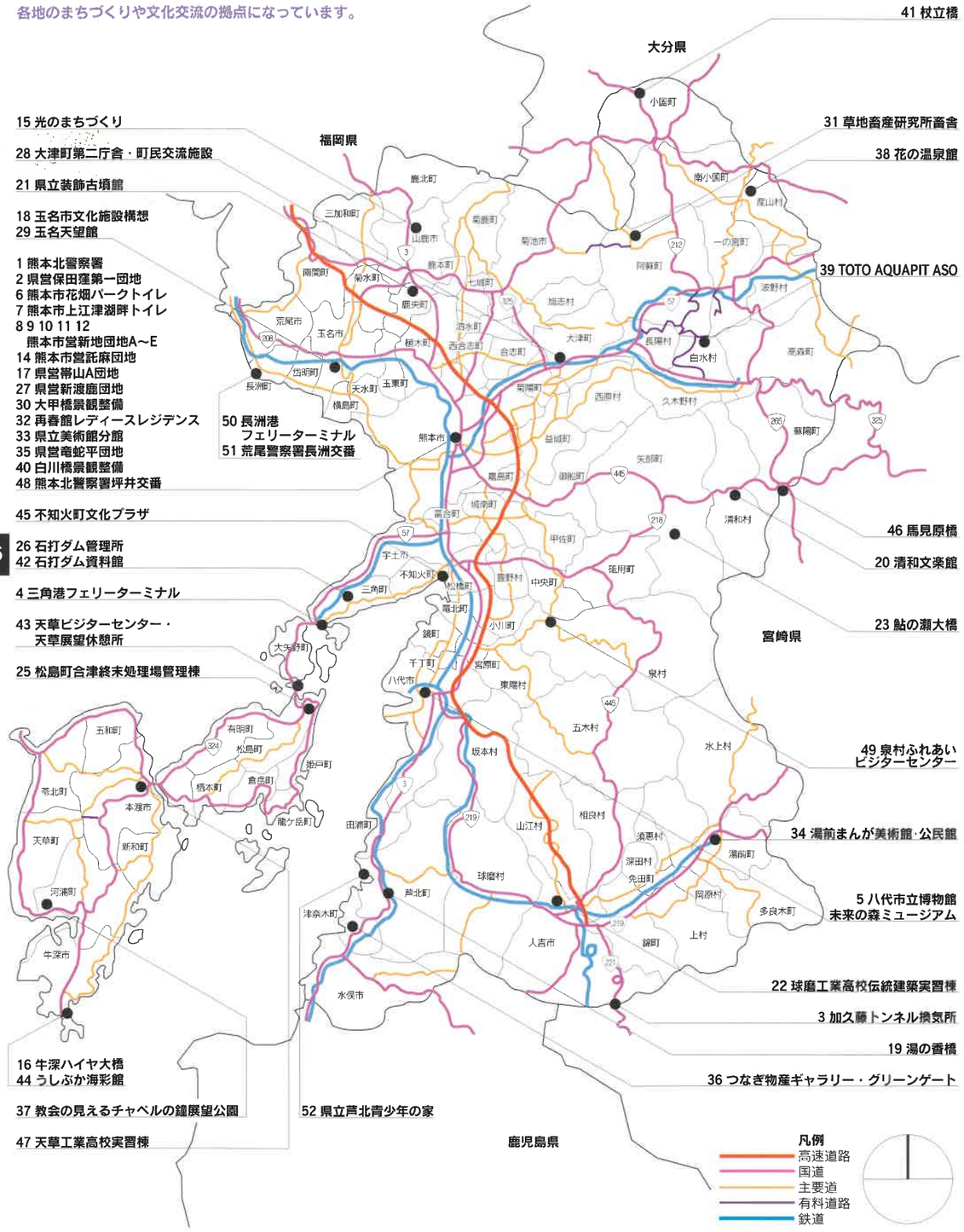
くまもとアートポリス・プロジェクト・マップ

熊本県内各地に建設・計画された
くまもとアートポリスの建築や施設（1995年12月現在）。
現在52のプロジェクトが竣工・進行中
各地のまちづくりや文化交流の拠点になっています。



くまもとアートポリスニュース

16号

馬見原橋が竣工。街中で気付かなかった自然の景観を十分に楽しめる場所ができた

- ●熊本国際建築展「くまもとアートポリス'96」に向けて実行委員会が発足
- ●第8回「くまもとアートポリスシンポジウム in 八代」報告
- ●くまもとアートポリス　デザイン・コンペティション「花籠の停留所」に決定
- ●橋づくりもアートポリス
- ●シリーズ…⑪,⑫　くまもとアートポリス参加建築家に聞く ―石田敏明、塚本政利

K·A·P

くまもとアートポリスニュース第16号
1996年1月発行
●発行――くまもとアートポリス事務局
熊本県土木部建築課内　熊本市水前寺 6-18-1
tel 096-383-1111 (内線6215)
fax 096-384-9820
●編集――くまもとアートポリスコミッショナー事務局
東京都渋谷区渋谷2-4-7 YK青山ビル
建築・都市ワークショップ内
tel 03-3407-4753　fax 03-3407-8753

kumamoto artpolis

くまもとアートポリス'96に向け 実行委員会の設立総会を開催

1996年11月に第2回目の国際建築展が開催される。
8年目を迎えたくまもとアートポリス。くまもとの建築・まちづくりを世界に発信しよう!!

福島知事を中心に、くまもとアートポリス'96実行委員会が始動した

1996年11月に開催される第2回目の国際建築展「くまもとアートポリス'96」が、いよいよ本格的に動き出した。同展の母体となる実行委員会の設立総会が去る11月17日、熊本市内のニュースカイホテルで開催され、KAP'96の事業計画や組織などを決めた。

実行委員会の会長は、福島譲二熊本県知事、副会長は磯崎新KAPコミッショナー、堀内清治KAPアドバイザー。理事にはまちづくり展の主会場となる熊本市、山鹿市、阿蘇町、清和村、泉村の各首長を始め、経済・学術・文化・報道・建設など各種団体の代表者が名を連ねている。

前回のKAP'92は、県内外から約17万6000人という大勢の人々が参加し、全国的にも前例のないほど大きな反響を呼んだ。

その背景には、熊本の県民が、アートポリスを大きな刺激として、自分たちの生活と文化に対する考えを率直かつ真剣にあらわし始めたという経緯がある。多くの人の思いは、ひとつの大きなうねりとなった。それが「くまもとアートポリス'92」の成果となってあらわれたのだ。住民を巻き込んだアートポリス事業は、単なる施設づくりの枠組みを越え始めた。それが全国にそして世界にアートポリスの名をとどろかす機会となったのである。

第2回目の熊本国際建築展KAP'96は《環境・文化・ひと－熊本の未来とアートポリス》がメイン・テーマ。KAP参加の全作品はもとより、熊本の長い歴史、風土の中で蓄積してきた建造物や各地で進められているまちづくりの成果を、国内外に紹介するとともに、先進的な世界の建築やまちづくりを学び、21世紀に向けた熊本ならではの新しい生活文化を創造することを目的としている。

今回の中心テーマは、これまでの8年間の成果を紹介するとともに、将来に向けた新たな位置づけを模索すること。

具体的には実行委員会の主催事業として、アートポリスの展覧会や見学会を実施する《アートポリスと世界の建築展》、都市デザインサミットやアートポリスフォーラムなどの《国際交流シンポジウム》、熊本市、山鹿市、阿蘇町、清和村、泉村で開催を予定している《アートポリスまちづくり展》の三本柱を計画、このほかに、諸団体が開催する協賛事業についても、広報や財政支援を実施することにしている。

なお、実行委員会には専門部会として、見学・展示・シンポジウム・まちづくり・協賛事業・広報記録の6部会が設けられている。このそれぞれの部会の活躍がKAP'96の成否に大きく影響するだけに、前回を上回るパワーの結集が強く望まれている。

会場となる市町村の各首長や各種団体の代表が理事に就任

熊本の魅力を一層輝かせたい

福島譲二熊本県知事

本県では、優れた施設を文化的資産として後世に残していくと同時に、その施設を核として地域のまちづくりにつないでいこうという趣旨で「くまもとアートポリス」構想を推進しています。

現在まで、公共団体や民間から52件の参加を得て、すでに36件が完成しています。

これらのプロジェクトは、ある場所では地域の「新しい顔」として住民に愛着を持たれ、ある場所では地域の活性化の起爆材になり、地域に寄与しています。

'92年の国際建築展以降も、多くの問い合わせや視察が相次いでいます。また、今年8月に実施した八代市のバス停の公開デザインコンペでは、海外も含め700点もの応募があり、アートポリスに関する関心の深さと知名度の高さを感じています。

来年11月に開催される第二回熊本国際建築展では、県内全域を会場として開催したいと考えています。アートポリス作品と併せて、さまざまなまちづくりの成果を国内外に紹介し、これからのアートポリスを考え、そして、熊本の魅力を一層輝かせたいものです。また海外の街づくりの担当者や建築家を紹介したいと考えています。

前回の'92では皆さまから多大なご支援をいただき、成功へと導くことができました。'96熊本国際建築展につきましても、より一層の県民の皆さまがたのご協力とご支援をお願い致します。

世界に向けて情報を発信しよう

磯崎新コミッショナー

KAP（くまもとアートポリス）が始まって以来、コミッショナーの立場で協力させていただいていますが、アートポリスの成果が、日本のみならず国際的にも大きく注目を浴びているというのが、外国を回っているとよく実感できます。

国内では、おそらくひとつの事業でこれだけ多くの賞を受賞した例はないのではないかと思うくらい、数多くの賞を受賞しました。それに加えて、外国で展覧会の相談などを受けると、必ずKAPの相談やシステムの問い合わせを受けます。

いま、「地方からの発信」が全国どこに行っても叫ばれていますが、実際にはあまり発信していないように思えます。しかし、KAPは想像以上に全世界に向けて大きな情報の発信源になっていると思います。

それをさらに進め、確実なものにするために、国際建築展「くまもとアートポリス'96」がその立場を推し進め、日本・世界の方々の関心を高めていく必要があります。さらには熊本の中での計画を一層、充実させていけば、本当に素晴らしい結果になると期待しております。是非これを成功に結び付けていただけたらと念願しています。

今後の方向性を考える大切な機会

堀内清治アドバイザー

磯崎さんも話されましたように、KAPでつくられた作品は、多くの賞をもらっています。日本建築学会賞は、熊本くらいの人口の県では、20～30年にひとつくらいの割合でいただけるものです。

ところが1992年以降、KAPの作品等が毎年、建築学会賞を受賞しています。これは、他県では聞いたことのないような盛況ぶりです。海外からの賞もあり、大小含めて30を超えます。

このように、KAPが全国的にさらには世界的に関心を呼んでいることは、磯崎さんを初めとするコミッショナー事務局の方々の見識と努力のおかげだと深く感謝しています。

こういう建築が熊本にたくさん出来上がっていくにつれて、これを核にまちづくりをしようという、まちづくりの運動も各地に起ってきました。

今度の「くまもとアートポリス'96」は、これまでのKAPのいろいろな成果、それから熊本県民がこれまでやってきたまちづくりの成果を皆さんに披露する展覧会です。

地元のわれわれとしては、今までのKAPの成果を省みるとともに、今後どうやって進めるべきか、どういう方向に進めるべきかを考える大切な機会でもあります。

「くまもとアートポリス'96」のテーマとして、『環境・文化・ひと』というテーマが提案されています。これは、建物づくり、あるいはまちづくりを単に施設の面だけで考えるのではなく、これを熊本の文化のひとつのより所としたい。さらには熊本の人たちの人間の生き方に関わるモラリティの問題だというふうに、建築を受け入れていただけるように、今後ますます努力して参りたいと思っています。

そういう仕事は建築関係者だけでは手に余る仕事です。皆さまのご協力とご支援がなければ、KAPが初期の目的を達成していくことは難しいと思います。皆さまのご協力とご支援を切にお願い申し上げます。

第8回くまもとアートポリスシンポジウム 1995報告 建築が「まちづくり」に果たすべき役割

市立博物館未来の森ミュージアムの建設を機会に、まちづくりの気運が高まる八代市の厚生会館大ホールで、去る8月25日、「くまもとアートポリスシンポジウム1995」が開催された。副題は『建築が「まちづくり」に果たすべき役割』。全国からのアートポリス・ツアー参加者も含め約600名が参加し、伊東豊雄氏の講演や建築家の坂本一成、元倉眞琴両氏を加えたパネルディスカッションに熱心に耳を傾けた。

このシンポジウムは午後から行なわれたが、午前中には熊本県と八代市が共催した「バス停」設計コンペの公開審査が伊東、坂本、元倉の三氏により行なわれた。その結果が午後のシンポジウムで発表され、そして直ちに表彰が行なわれた。コンペ参加者にとって、それは悲喜こもごものひとときとなった。(講評、コンペ当選者については、後章に紹介)

シンポジウムでは、福島知事が、アートポリス'96への協力を呼びかけるメッセージを寄せた後、沖田嘉典八代市長が「伊東豊雄氏には市立博物館以来、養護老人ホーム保寿寮、それに八代広域行政消防本部と八代のネットワークの要となる3つの建物を設計していただいた。その延長線上で、市営住宅西片団地の建替事業に地元の設計事務所が取り組み、八代独自の文化創造が認められて、同事業が建設大臣賞を受賞した。また、今回、バス停のデザインコンペを実施したが、国内外から700点の応募案が寄せられた。その結果については後ほど報告があるだろうが、これらの作品は、八代市の貴重な財産として、今後のまちづくりに有効に活用としていきたい」とあいさつした。

そして、「八代市中心市街地に建つ公園施設としてのバス停」デザイン・コンペティションの入賞者を表彰した後、講演に移った。

公共建築への提案

シンポジウムの第1部は、伊東豊雄氏が「公共建築への提案」と題して講演した。

伊東氏はアートポリス参加作品の八代市立博物館の設計以来、同市と付き合いが深まり、市から「養護老人ホーム八代市立保寿寮」「八代広域行政事務組合消防本部」を任され、さらには民間の小さなギャラリーである「ギャラリー8」も手掛けている。

伊東氏はまず、バス停コンペの当選案を「花で作られた帽子をすっぽり被ったように、バスを待っていると大きなパーゴラのなかにすっぽりと入ってしまうような」案と紹介、「われわれとしては、まちの方々が大事に愛してくださることができるような、そんな案だった」と講評した。

続いて、伊東氏はひとつの都市で4つもの仕事を担当できたことに心から謝辞を述べ、それらの建築に共通しているテーマをわかりやすく語りかけた。

それは八代の‘暑い’という第一印象から来ているのだが、建築として木陰を、森とか林をつくろうというイメージが一貫している。市立博物館は、その名に未来の<森>が登場するが、当初から、たくさんの柱で屋根を吊っているような林のイメージを描いていた。

日奈久の老人ホームは、フラットな大きな屋根を壁と柱で支えるような構造になっており、そこを風が吹き抜けていくような林の空間をつくろうとした。3月に竣工した消防署では、大きなボリュームを上に持ち上げ、下は柱だけで支え、消防車が並び、あるいは緑の芝生になっている。これもまた、林のようにつくられている。

しかし、林のような空間をつくりながらも、その考え方は少しずつ変化してきた。それは、伊東氏の、建築の公共性をどうようにつくりだすかという考え方と直結している。

つまり、市立博物館では周辺の環境と調和し、建築とランドスケープが一体となるような建築をつくること、環境をどのようにつくっていくかに関心があった。しかし、消防署では環境をつくる以上に、建築自体が市民の人たちにどのような働きかけができるか、建築を構成していく条件と建築をつくる形式との間の関係、建築のプログラムが問題になってきた。

これまでの公共建築は、ある種決まった形式を維持する方向でつくられているが、これを少し組み換えて、使う人にとってもっと開かれた公共建築にできないか。皆が目的を持って集まっていくような目的地としての堅固な建築ではなく、駅のように、どこからでも気軽に立ち寄り通過していけるような日常的で開放的な公共建築に変わっていくべきではないか。

伊東氏はこのように結論付けたあと、これからも、さまざまなバリアを解いていくような建築をつくっていきたいと語った。さらに、くまもとアートポリスの建築の今後のテーマについて「どのような新しい社会的な提案、プログラムに対する提案を提出していけるかが問われている」と指摘し、第1部の講演を終えた。

パネルディスカッション

第2部のパネルディスカッション「建築がまちづくりに果たすべき役割」ではまず、講師の坂本、元倉両氏がそれぞれ、スライドを使い、基本的なコンセプトを説明した。

坂本氏は‘コモンシティ星田’‘託麻団地(アートポリス作品)’‘ベイサイドタウン幕張パティオス4番街’という3つの集合住宅を紹介しながら、新しくできるコミュニティを都市的な公共の場所と向き合わせる、例えば、住宅に住んでいるというより、公的な場所に接して住んでいるという場所をつくることによって、都市のなかに住むという新しい居住形態を提案してきた、と語った。

元倉氏は、人の生活がすべて住宅やその周辺道路で展開されていた東京の下町での生活体験を紹介しながら、いくつかの事例を通して、都市住宅のあり方を表明。熊本県営竜蛇平団地(アートポリス作品)では固定化された箱的な集合住宅の形式ではなく、いかに人間が直接建築と関わりあえるようにしていくかが大きな主題だったと説明した。

このあと、伊東氏も加わり3人で住まいとまちとの今日的な課題を巡って意見交換した。

伊東氏が「現実には、マンションでは隣に住んでいる人さえ知らなくなっている。一個の家族が直接、都市空間に飲み込まれており、地域との関係がなくなっている。そのとき、近隣的なコミュニティ空間をつくるべきなのか、あるいはむしろ排除したほうが快適なのか、その辺が集合住宅をつくる時の大きな別れ道になる」と問題提起した。

坂本氏は「近所付き合いなど排除すべきだと言うのではなくて、現代を生きているという意味でコミュニティを一度相対化したらどうか。そのとき、ここは団地だからと言って周辺と切り離すのではなく、どこからでも自由に人が入れるような団地にすることのほうが重要な意味がある」と応じた。

元倉氏は「私が獲得しようとしていることは、建築とわれわれの直接性。竜蛇平団地の中庭にしても、あるコミュニティをつくろうとしたのではなく、都市のひとつの細胞のような都市的な環境をつくろうとした」と語った。

その上で、元倉氏は「その直接性といったとき、その建築とわれわれの間にストレスが生じてくる。今までは、そのストレスを回避する方向で動いてきた。しかし、例えば八代の消防署の場合、一般の人が入ることができるようにした瞬間、管理の問題がでてきて、そこにストレスが発生する。実は住むことでも同様で、そのストレスを、お互いに調整しあうことによって、意志疎通ができ、相互の関係が生まれて来るのではないか」と、<ストレス>を軸に討論を展開させた。

これに対し伊東氏は「消防署ではあのようなつくり方を使う側が許容してくださったが、われわれが予想した以上に一般の人たちがなかに入って来て、トレーニング中はもとより、食事の時まで気を抜けない、つまりストレスを強いられる。団地の場合でも、閉鎖的にするほど外の人はシャットアウトされ、人との関係が失われていく。このことはあらゆる公共建築に通じており、その相互関係の許容度というのをどの辺りに定めるか」と、問題を投げかけた。

坂本氏は「住宅というのは、ある種とても保守的だが、コモンシティ星田ではより開放的なあり方を追求した。その結果は、研究者の調査で比較的楽しまれているということがわかった。要するに、思い方や慣れ方次第でわれわれは変わっていく側面があり、より開いた場所のほうが快適に感じるのではなかろうか」と応えた。

そして坂本氏はくまもとアートポリスについて「今の若者たちは、熊本はいい建築のあるところという思いが強く、現代の建築の新しい潮流を知りたければ熊本に行くということが起りつつある。熊本の街、田園という<地>があって、そこにひとつのネットワークがいつのまにかできている。その<図>のネットワークが熊本の新たな文化であり、地域性をつくってきている。これを推進していけば、日本だけでなく完全にグローバルなひとつの大きな文化ができていくのではなかろうか」と、アートポリスの運動を高く評価した。

元倉氏は「われわれ建築家は、都市だけを考えてきたきらいがある。しかし、アートポリスは、都市を論じることは裏返しに田園を問題にすることだと気付かせてくれた。これからの主題のひとつとして、建築と田園の関係を徹底的にやるべきだと思った」と提案した。

建築のネットワークの力

最後に、伊東氏が「公共建築を設計するときは、全世界を相手に一人で戦っている気持ちになりがちだが、熊本では、みんながネットワークを張って、新しいものをつくっている、あるいは新しいものを提案するのが当り前だという気持ちになれる。それが、若い建築家たちの飛躍にもつながっている。主催する方々の一層の頑張りを期待する」と結んで、シンポジウムを閉じた。

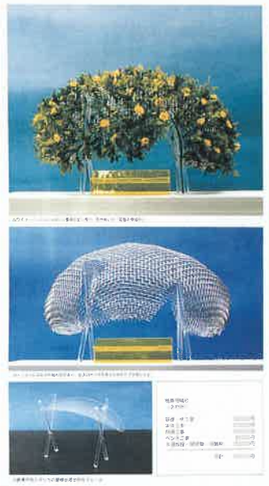
●シンポジウムと同時に開催されたアートポリス見学ツアーには約50名の建築家、学生が参加した。1日目、竜蛇平団地、託麻団地、八代広域消防署、養護老人ホーム保寿寮をバスで巡り、現地で建築家の説明を受けた。翌日はシンポジウムへの参加、3日目は市営新地団地、草地畜産研究所を回った。リラックスした雰囲気の中で建築家との直接の質疑応答、八代広域消防署では署員との懇談など、なごやかな雰囲気の中でも密度の濃い見学会となった。

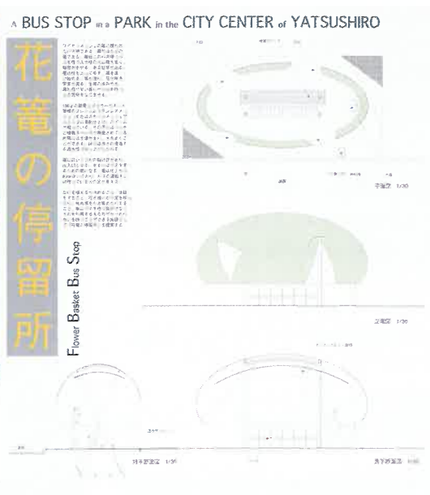
八代「バス停」
公開デザインコンペの結果は熊倉洋介案に

表彰式：八代市長と熊倉氏

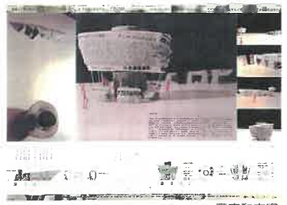
最終審査

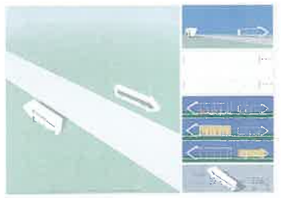
最優秀賞

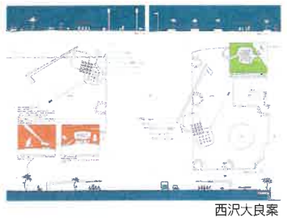

熊倉洋介案



優秀賞


高森和志案

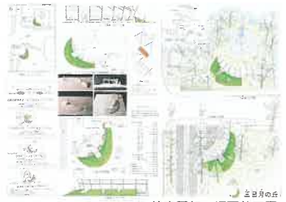

佐々木龍郎・白石良江・西川賢治案

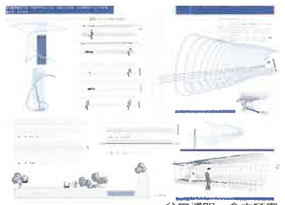

西沢大良案

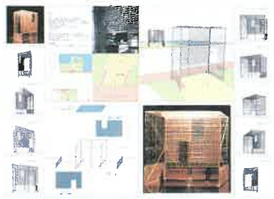
佳作

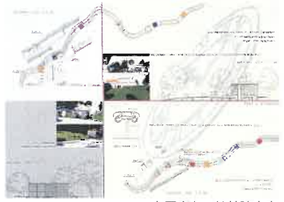
大竹海案

藤村憲之・神山早苗案


鈴木基紀・坂下兼三案


谷口博明・倉本琢案


塩塚隆生・古庄恵子案


上原慶久・篠崎建志案

熊本県と八代市が主催した「八代市中心市街地に建つ公園施設としてのバス停」デザインコンペは、国内外からなんと700点もの応募案が寄せられる大反響の公開コンペとなった。

700点から最優秀1点を選び出すという厳しい審査を担当したのは、建築家の伊東豊雄氏（審査委員長）、坂本一成氏、元倉眞琴氏の3氏。審査は3段階で行なわれ、第1段階で54点に絞った後、8月25日の八代でのシンポジウム前日に10点に絞り込み、この10点につき、シンポジウム当日の午前中に公開審査を行なう方式を採った。

まず、10時間かけて700点から54点に絞るのも大変な作業だったが、シンポジウム前日の10点を選び出す作業も約3時間もかかるなど、念には念を入れた審査となり、全員の賛同で10点が選出された。選ばれた10点は最優秀か優秀、佳作のいずれかに入賞したことになる。

この10点を除いた44点については、シンポジウム会場の八代厚生会館ロビーにそのまま掲示され、コンペに参加しシンポジウムにも訪れた人は直接、審査員から講評を得ることができる時間を確保した。実際、審査が終了した後、審査員に自作への意見を求める熱っぽい光景が、ロビーのいたるところで展開された。

公開審査は桂英昭熊本大学講師が司会を担当、残った10点について各審査員がそれぞれ講評を述べた後、ひとりが4点を選ぶ方式で本格的な選択に入った。その結果、満票1点、2票3点、1票3点となり、票が入らなかった3点がまず佳作に決定した。

次に1票ずつ獲得した3点を検討した結果、2点が佳作に決定し、残り5点となった。この段階で、最優秀をどれにするかも含めて検討。最後の佳作の枠が2点に絞られ、委員長裁定で1点が選定され、佳作6点が確定した。

最後まで佳作を争った作品は、自動的に優秀賞となり、残り3点の中から、最優秀賞を選ぶことになった。この段階で、建築デザインとして優れた作品にするか、コンペというイベントを通じて、広くアイデアを求めたということで選ばれるような案にするかが問題となり、浮上してきたのが最優秀に選ばれた案だった。

「八代市役所のそばにもパーゴラがあり、それがとてもいい。また花壇というイメージが公園にも重なってくる。雨処理も簡単な装置でチャーミング。メンテナンスが少し心配だが、市役所そばのパーゴラが成立しているなら、ここも大丈夫なのではなかろうか。他の2案は他のコンペでもでてきそうだが、この案はこのコンペだから出てきたと思う」と、坂本氏は同案のイメージの豊かさを推薦。

伊東氏も「他の2案には建築的な魅力があるが、自分も含めてだが、そのために失われているものを感じる。それに比べてこっち（最優秀案）は自分にはもう失われてしまっているような、街の人が本当にメンテナンスしてくれたら、何かすごく暖かいシンボルになり得る可能性を持っている」と評価した。

この議論の後、3点の中から最優秀案を選ぶことになり、ひとつずつ検討する段階で同案が再度浮上してきたのだ。

それに対し元倉氏は「ふたつ気になる部分がある。ひとつは帽子のように被ることになるが、実際にはうっとうしくならないか。第2に図面ではアクリルのベンチがセットされているが、ちょっとオリジナルなものにして欲しい」と注文を付けた。

伊東氏も「アートポリス・ツアーなどで建築家の人たちが来たら、プロ的な案が見られるのかも知れないが、街の人に愛される、ということになると、こちらの案になるのではないか」と評価。

坂本氏も「3案はほとんど同格に近いが、この案（最優秀案）はこのコンペだから出てくる案だと、強く感じる」と評価して、同案に大きく傾斜。元倉氏も「これを基本設計とし、今後市当局とよく協議するということならば」と応じた。

そして、コスト面や実現性を検討した後、伊東氏が「この辺りで結論を出しますか、私は異論はありません」と結論、最優秀案が選定された。

この後、50点に残った案で、審査員が気になった作品の講評を行ない、この公開審査の幕を閉じた。

入賞者は次の通り。

▽最優秀賞＝熊倉洋介（みかんぐみ）

▽優秀賞＝高森和志（KAJIMA DESIGN）、佐々木龍郎（トータルリビング）・白石良江・西川賢治（佐々木設計事務所）、西沢大良（フリー）

▽佳作＝大竹海（フリー）、鈴木基紀・坂下兼三（空間設計社）、塩塚隆生・古庄恵子（塩塚隆生アトリエ）、藤村憲之・神山早苗（A. LAB）、谷口博明・倉本琢（早稲田大学大学院石山研究室）、上原慶久（熊本大学大学院伊藤研究室）・篠崎建志（同大学院北野研究室）

なお、八代市はこの公開審査の結果を得て、1996年11月の国際建築展までにバス停の建設を予定しており、準備を進めている。

最優秀に輝いた熊倉氏の喜びの言葉

公開審査の模様は、後半から聞くことができましたが、応募者が多く、また他の案も魅力的な作品が多く、最後まで結果がどうなるかわかりませんでした。審査員の方々が正確に理解されており、その指摘はいちいちもっともだと思いました。

敷地は、今年のゴールデンウィークにKAPの作品を見て回ったときに見ていたのですが、あの＜花籠＞のイメージは、応募案を作成するスケッチの段階からありました。

KAPの作品を見て回ったとき、作品に必ずアートポリスのプレートが付いているのを見て、自分も将来、こんな仕事をできたらいいなと思っていました。同じ熊本県でこのような作品と肩を並べてつくることができることになり、本当に嬉しい限りです。

今回の私の提案はパーゴラをつくり、＜花籠＞にしようというもので、市民の皆さんの手でこのバス停を育てて行くこと、それこそが基本的なコンセプトであり、ここでやりたかったことです。ですから、是非とも市民の皆さんのご援助、ご協力を得たいと願っています。ここに何を植えたらいいか、どう育てていくか、一緒に考えてくださいませんか。

（談：熊倉洋介）

●熊倉洋介プロフィール
1962年新潟生まれ
1986年東京都立大学卒業、88年同修士課程修了、ペンシルヴァニア大学客員研究員を経て1993年都立大大学院博士課程修了
1990年デザイン・スタジオ建築設計室
1992～95年東京電気大学非常勤講師
1994年（有）熊倉洋介建築設計事務所設立
1995年（有）みかんぐみ一級建築士事務所設立、現在東京都立大学非常勤講師

全応募作品を収録（希望者のみ）した作品集。希望者に実費頒布します（残部僅少）。コミッショナー事務局までお問い合わせください。
Tel. 03-3407-4753

橋づくりもアートポリス

アートポリスは建築、土木の区別なく、われわれの生活文化を支える環境全体のデザイン性を高揚させることを目指している。それがアートポリスの大きな特徴となっている。
環境の重要な構成要素のひとつが「橋」。アートポリス・プロジェクトの約1割が「橋」である。橋は、住民の日常生活に密着しているだけに、そのデザインが地域に与える影響も大きい。そこで今回は、「橋」の設計を担当した建築家のみなさんに、そのデザイン・コンセプトや地域への思いを聞いた。

馬見原橋。通常の道（上部）と歩行面（下部）との二重構造になっている

橋詰の夫婦岩にかかる<しめ縄>が目印

歩行面からは、穴を通して川面が見える

アートポリスの橋づくり ── ❶

馬見原橋 馬見原橋が竣工した。神話の舞台に新しく橋がかかった。

まず橋の架かる馬見原橋についてお伺いします。青木さんには古くなった道路橋の架け替え工事ということで設計が依頼されたわけですね。ところが青木さんは単なる橋にとどまらずに、もっと町全体への提案を含んでいますね。
この橋が架かる馬見原地区は日向と肥後を繋ぐ街道筋に栄えた宿場町です。橋の所の夫婦岩には<しめ縄>がかかり、川原が神話の舞台とされたり、いまでも旅籠屋が数軒残っていたりすることからわかるように、大変歴史的なところです。
林業に替わって新しい町の産業、文化をどう育てていけるか、「まちづくり」もこの一環としてテーマをつくらなきゃいけないだろうとまず考えたわけです。それで橋から始まって「道」のネットワークを考えたんですね。そもそも私は「道」を作ることに関心があった。つまり、人が通り集まるところに場所や劇場などの建物ができ、そして都市になるという流れに関心を持っていたのです。最初から建物に目的が決められているより、面白いじゃないですか。そんなことを考えていたから「橋」の設計が来たときには、偶然とはいえ驚きました。
この橋は二重になっていて、上は道路がそのまま繋がり、下の歩行面は町の人に開かれ、その使い方は委ねられています。夕涼みに佇んだり、毎晩のように宴会が開かれたり、嬉しかったですね。結婚式に使ったらどうだろう、なんて私は考えています。

青木淳氏

できあがった橋を見るとデザインされたというより昔からあったような「原形的な人道橋」という形ですね。
この橋は建築家から見れば、たぶん何もデザインされてないように見えるんじゃないかな。でも、私の意図としては、橋の構造形式を経済性のみで判断するのではなく、ちょっとした考え方の変更で、通常の都市空間の中に人が居られる場所を作ることが可能である、環境が変わるんだということをここで示すことができたんじゃないかと思っています。
自分の建築家としての作品をつくるんじゃなくて、こんな、ある意味で原形的な工夫を普及させたいと考えていました。

なるほど。そんな考えで人の居られる場所が町中にたくさんできるといいですね。
できれば、この橋で考えた道の在り方をたとえば、この町中に拡げてあるネットワークを作っていけたらいいと考えています。たとえば、蘇陽町の町の在り方は、都心の歩行による密度ではない人の行きたくなるような場所の繋がりがあってもいいはずです。
たとえば、バス停とか、あるいはバスそのものが、人の集まりを作りだすきっかけを作り出し得る装置になるんじゃないかと考えています。（談：青木淳）

新しい橋によってまちを歩く楽しみがひとつ増えた

アートポリスの橋づくり ── ❷

姿を現した牛深ハイヤ大橋 牛深架橋がいよいよ全容を現してきた。

工場で組み立てられたひとつの長さが100m前後の桁が船で運ばれ、およそ8日間で、8つのブロックがコンクリートの橋脚に載せられた。

橋桁をクレーンで吊り上げて組み立てる

フラップ（風よけ板）によって歩行者を風から保護すると同時に、橋全体が揺れないようにしている

橋建設のハイライトともいえる上部構造（橋桁）が載せられましたね。
ええ、ようやく海上部分の桁が橋脚の上に載りました。
2,200トンの大型クレーンが平均150m、1,200トンの橋桁を吊り上げ、一気に組み上げています。もちろん設計段階、モックアップの段階で、どういう風にこの橋が牛深の環境の中で見えるかと検討は重ねてきているんですが、実際の風景の中で確認できたという感じです。
「最小限の人工物が必然性を持った形で宙を浮く」というコンセプトはうまく実現できたといえます。

具体的な橋桁のディテールが効果的ですね。
橋の特徴である、底面が丸くなった橋桁や、すでに工場で取り付けられたFRCフラップ（カーボンファイバーで強化されたコンクリートの風切版）が、橋を軽く見せるのと同時に、5mほどの高さの大きな桁に細やかな連続したスケール感を与えています。

今後の工事のスケジュールは?
このあと地上部分（牛深市役所前あたり）の建設に入り、完成まであと2年足らず工程を残していますが、その間にこの橋が牛深の人達の心象風景として定着してくれることを望んでいます。
（談：岡部憲明）

橋桁が海上に滑らかなカーブを描く

基礎工事の進む杖立橋

アートポリスの橋づくり ── ❸

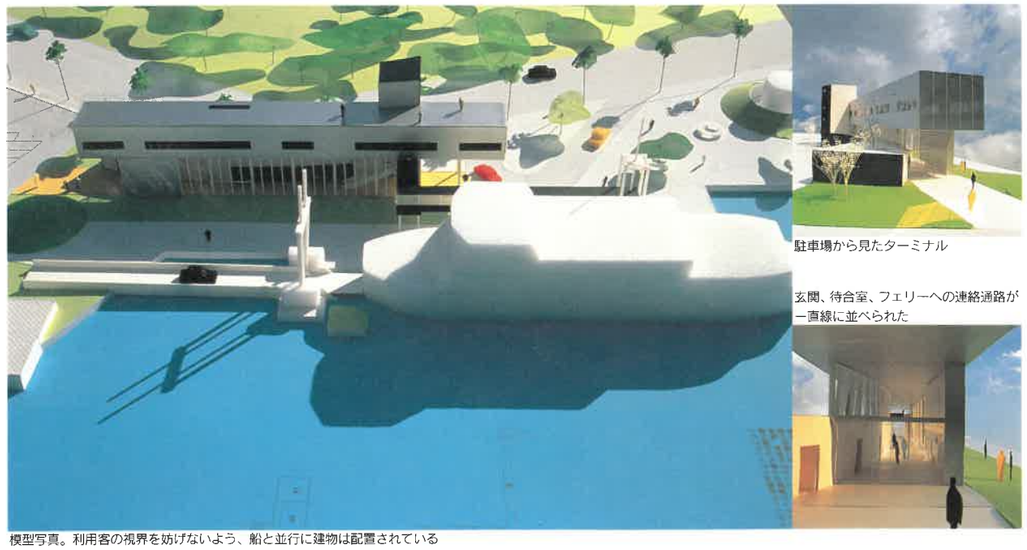
杖立橋に熱い期待が 杖立のヤル気を起こそう。

増水期を挟んで工事が休止していた杖立橋も、今春の竣工を目指して急ピッチで工事が進んでいる。
鉄骨が主体の上部構造は12月現在、工場で製作中。並行して進められている橋と国道をつなぐ多目的室も3月を目標に工事が進む。

設計が始まってから大分時間がかかりましたが、竣工まであと一歩となりましたね。
杖立に何度も足を運ぶうちにいろんな人と話す機会を得ました。たとえば橋の周囲にある有効に利用されていない場所の活用など、いろいろ議論が盛り上がっています。
アートポリスは結局、人々の思いを形にする「さそい水」なんですね。主体はそこに住む人々のヤル気なんです。建物はそれを援助するのが役目。こんな雰囲気がやがて、橋の全体が架かるころには、さらに熱気を帯びてくるでしょう。
（談：新井清一）

有明フェリー長洲港ターミナル：石田敏明氏

雲仙・普賢岳に向き合う長い箱



駐車場から見たターミナル

玄関、待合室、フェリーへの連絡通路が一直線に並べられた

模型写真。利用客の視界を妨げないよう、船と並行に建物は配置されている

長洲ターミナルビルの建設工事は急ピッチで進んでいる。現在、地中梁の配筋を終え、１月半ばには架構を終え、三月末に竣工する予定だ。

長崎県の多比良港との間を就航する有明フェリーのターミナル。有明周遊観光ルートの中でも、ユリカモメやスナメリが航路で望めるなどの人気航路で、年間200万人が利用する。
このフェリーターミナルは、熊本県の西の玄関口としてのシンボルとなり、観光拠点としてフェリー客に快適な待合い場所を提供することはもちろんのこと、長洲町地域住民に日常的に親しまれる施設となるべくアートポリスに参加した。

計画を拝見しますと、この建物はかなり単純な四角い箱のイメージですね。

フェリー・ターミナルは、接岸する船に並行して配置されています。それは細長い敷地の形への対応もさることながら、アプローチした利用客の視界を妨げないようにするためなんです。そのうえ、このような動線はこれから船に乗り込もうとする乗客の動線を明快に示し、わかりやすさを現しています。
建物のかたちは、よくあるような船や海鳥のイメージを直接採用する安直なメタファーを避けています。むしろ利用者の見方でさまざまな見え方ができるように考え、ブレーンな形（直方体）を取りました。人がこの建物に対して固定的なイメージを持つことより、自由な拡がりを持たせたかったんですね。

建物内部に大きな吹抜け空間がありますね。

コンコースとなる建物の中心部分「待合室」は2層分吹抜け空間で、ブーメラン型の、直方体にくっついて黒く塗られた部分にトイレや売店が納められるほかは、海に向かって大きく開放され、待合の利用客は、ゆったりと時間を過ごすことができるでしょう。
展望デッキは海側の屋上に作られています。有明海とはるか遠くに雲仙普賢岳など大自然のパノラマを望むことが出来ます。

建築の構造についての特徴をお聞かせください。

軟弱な地盤のコンディションに対して、サンドコンパクション（砂くい）をきめ細かく打ち込み、地震時における砂質地盤の液状化に対して抵抗するとともに、地耐力を上げています。さらに建築上屋をなるべく軽い構造とし、地震時のエネルギーを十分吸収しうる粘り強い構造としています。具体的には、上下階の変位差が少ない剛接合の鉄骨純ラーメン構造採用しています。

乗船用デッキやフェリー待ちの駐車スペース、フェリー用の燃料タンクなど様々な施設がこのフェリーターミナルを取り巻いていますね。

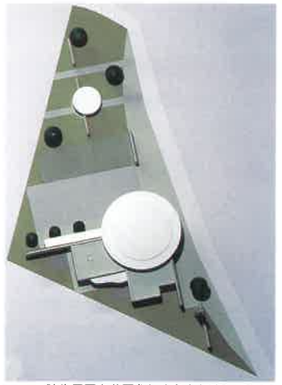
雑然としがちなフェリーターミナル周辺を、緑化するなど環境整備を施し公園として市民も日常生活の中で活用できるような提案を現在行なっています。長州駅前地域に対して、この周辺を市民の利用できるウォーターフロントの快適な空間として、物産館、公的な施設をうまく連結していって、魅力的なエリアになることを望んでいます。（談：石田敏明）

荒尾警察署長洲交番：塚本政利氏+設計機構ワークス

交番は夜も地域の灯台に

長崎県の雲仙・島原と結ぶ長洲フェリーターミナル。熊本県北部や福岡県南部地域からだったら、ここを使ったほうが長崎へは近い。その「長洲フェリーターミナル」から約200mの距離に計画されているのが「長洲交番」。設計は福岡を拠点とする塚本政利氏と設計機構ワークスが担当している。九州を担う気鋭の建築家の一員でもある。建物の竣工は今年3月の予定。

模型写真。事務室の円形の屋根は外からは浮いているように見える



建物周囲を公園化しようと提案している

どんな敷地条件ですか。

フェリーターミナルからわずか200mで、国道501号が緩くカーブしているところにあります。フェリーから出てきた正面の、半島のように道路側に突き出した三角地帯の突端にあり、県道や地域の中心的な交差点を見渡す理想的なポイントにあります。ところが、三角地帯の突端に宿舎があり、交番からはフェリーターミナルのバス停側交差点がとても見えずらくなっています。
そこでわれわれは、大きく分けてふたつの提案をしました。ひとつは敷地が道路側に突き出し、結接点にあることから、『灯台』のイメージで建物をデザインすること。第二に計画敷地外の宿舎部分も含めて考え、その部分をポケットパーク化することです。これについては現在協議中ですが、良い方向に進みつつあると思います。

壁と円形の屋根が特徴的ですね。

建物は南側の隣地民家側に配置し、ポケットパーク（予定）との間に駐車場を設けました。周辺の軒の低い家並に合わせ、シンプルな煉瓦積みの壁を県道に平行に4枚、直角方向にそれぞれ1枚建て、壁の交差する事務室部分に空中に浮く形で円形のフラットな屋根を乗せています。
アクセスは北側の県道側からで、車を駐車場に置くと、その向かい側が交番の事務室です。平面プランは、ワンルーム空間の事務室を中心に、玄関に近い北側にコミュニティルーム、取調室、奥の南側に仮眠室や待機室を配置しています。
事務室空間上部の円形の屋根と、途切れながら連続する壁が、この建物の大きな特徴になっています。

灯台のイメージだそうですが。

「灯台」をイメージした事務室の上部空間は、天井高が約5mもあります。しかも屋根面との間には高さ1.2mもある天井欄間を設け、そこにガラスをはめ込んでいます。だから、外からは円形の屋根が浮いているように見えると思います。
円形の屋根は、人を呼び寄せる庇にもなりますが、夜になると、事務室内部の明りが天井欄間から外へ溢れだし、灯台のように地域の人々にシンボリックに輝いてくれると思います。陸の半島にある灯台のようにこの交番が光り、地域の人々に大きな安心感を与えてくれることを期待しています。
壁は、リズミカルに途切れさせながら連続させています。ガラス面をできるだけ大きく取り、人々が入りやすいように開放的な雰囲気にする一方で、交番の本来的な機能である防御的な部分を壁によって確保することにしました。この開放性と閉鎖性をどうバランスさせていくかが、大きな課題でしたね。
厚い壁を配置していますから、少し防御的な印象を持たれるかも知れません。しかし、以前、国道を突っ走る暴走族から火炎瓶を投げ込まれる事件があり、そのためにもガラスは強化ガラスを使用し、ある程度の防御の方策をとっています。

宿舎部分の取り扱いが鍵ですね。

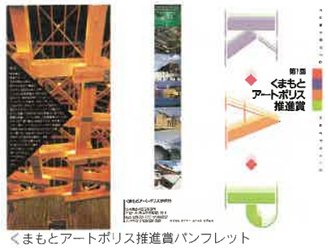
そうですね。ポケットパークとしてできるだけ公園化できたら、と願っています。ただ、昔の島原災害の時の供養碑があり、その取扱いが問題になったんです。でもこれも、当初から公園計画のなかに組み込んでおりますし、関係者の方々のご努力で何とか良い方向に動きそうです。96年11月の国際建築展までに、宿舎の取り扱いが決着し、公園化されているかどうか。できていればいいのですが．．．。
（談：塚本政利）

インフォメーション

くまもとアートポリスにまつわるエピソード、
プロジェクト周辺の話題などを本誌上で取り上げていきます。
読者の皆様のご寄稿をお待ちしています。
くまもとアートポリスに関するご意見、ご感想もお寄せ下さい。
●くまもとアートポリス事務局：熊本県土木部建築課内　熊本市水前寺 6-18-1
tel: 096-383-1111（内線6215） fax: 096-384-9820

くまもとアートポリス推進賞を新設

熊本県は、くまもとアートポリス事業をさらに幅広く推進するため、今年度から「くまもとアートポリス推進賞」を実施します。
この賞は、質の高い独創性のあるデザインを有する建造物などを顕彰し、環境デザインに対する関心を高め、都市文化並びに建築文化の向上による地域づくりを図ることを目的としています。
第1回の対象は、昭和63年4月1日以降に竣工（改修含む）した県内の建造物等を対象とします。ただし、アートポリス参加プロジェクトおよび県の施設は除きます。
選考基準は、建造物等の企画、設計、施工及び施設の運用などに関する総合評価で、▽優れたデザインを有しているもの▽技術的な提案や施工方法の改善がなされているもの　▽良好な施工が行なわれているもの　▽建造物の利用面において創意工夫がみられるもの　▽メンテナンスが良好なもの ── などが評価のポイントとなる。
くまもとアートポリス推進賞（知事表彰）は5点程度で、それぞれの事業主（必要に応じて管理者を含む）、設計者、施工者に表彰状を贈ります。また、事業主には銘板を贈ります。
選考委員は堀内清治氏（委員長）、桐敷真次郎氏、陣内ヒロミ氏、トム・ヘネガン氏、永田求氏、早川邦彦氏、久野啓介氏、藤井輝彰氏、渡辺定夫氏。
第1回の応募は95年11月末に締め切り、87件の応募があった。発表は平成8年3月の予定。問い合わせは、熊本県土木部建築課アートポリス班（電話096-383-1111）



くまもとアートポリス推進賞パンフレット

＜アートポリスを考える会＞設立シンポジウム

アートポリスの活動を民間ベースで支援する団体として発足した「アートポリスを考える会」は、設立記念シンポジウムを去る5月29日、熊本市内のメルパルク熊本で開催。会場には約500名が参加、他県の事例などを学び、アートポリスの将来を真剣に考えた。
同シンポジウムのテーマは「自分たちで考える地方都市の未来」。クリエイティブTOWN岡山のコミッショナーをつとめる建築家の岡田新一氏、長崎県の都市プロジェクト顧問および宮城県白石市の都市プロデューサーをつとめる堀池秀人氏、アートポリスコミッショナー事務局の八束はじめ氏の3氏が岡山県、長崎県、白石市、それにアートポリスの現況をそれぞれ紹介した後、八束氏が司会役となり、3氏が鼎談した。
この鼎談では、いずれの都市でもくまもとアートポリスが貴重な先進事例となっていることが明らかにされ、点的なプロジェクトをどのように面に広げて行くか、単年度予算に縛られる行政をどのように取り込んで行くか、さらには地方らしさをどのようにくみ取って行くかーなどを巡って意見交換した。
このなかで岡田氏は「最初から面的な広がりを持たせることは難しいが、現在の都市計画は、縦割り行政や単年度予算に縛られて、なかなか全体的な視点から考えられない。コミッショナーが個別案件を横につなげるように大いに発言している。自治体が自由に発想できるようになって欲しい」と、行政に注文をつけた。
また、地方らしさをどう考えるかという問題に対し、堀池氏は「○○らしさは常套句となりがちだが、その地方のアイデンティティは、その土地を読み込むことによって把握できると思う」と述べた。
この後、会場からも質問が寄せられた。“地元の建築家をどう参加させているか”という質問に対し、岡田氏は「地元の人には登録をしてもらい、適材適所で指名している」、また、堀池氏は「地元とそれ以外を区別していない」と答えた。
熊本では、民間団体が自分たちの問題としてアートポリスを真剣に考え、地域づくりに行動し始めている。その意欲は、同シンポジウムに熱心に聞き入る聴衆の姿によく表れていた。「考える会」の今後の活動が大いに期待される。

＜日本建築学会賞・BELCA賞・アジア太平洋デザイン賞＞合同の受賞祝賀パーティ催される

アートポリス参加事業の「熊本県営竜蛇平団地」の設計で元倉眞琴氏が1995年日本建築学会賞（作品部門）を、「小国町における木造建築文化振興による町づくりの功績」で小国町の宮崎暢俊町長が同学会賞文化賞を、また、アートポリス参加事業の「県立美術館分館」の建設で福島県知事をはじめ、設計者のエリアス・トーレス氏、J・A・M・ラペニア氏及び大和設計並びに施工各社が平成6年度BELCA賞（BRB部門）を、さらには同じくアートポリス参加事業の「再春館レディース　レジデンス」で設計者の妹島和世氏が1995年のアジア太平洋デザイン賞をそれぞれ受賞した。
アートポリス参加事業の建築学会賞（作品部門）の受賞は1994年の「熊本市営団地A他」（設計者：早川邦彦氏）、「熊本県草地畜産研究所」（設計者：トム・ヘネガン、インガ・ダグフィンスドッター、古川裕久の各氏）に続く快挙。また、同文化賞は1993年に「アートポリス事業」そのものが受賞しており、小国町の宮崎町長の受賞は県内で2度目の栄誉。さらに、BELCA賞（BRB部門）は、改修によって画期的な活性化を図ったもので、特に優秀な作品に贈られるもので、県立美術館分館が県内で初の受賞となった。
こうした建築関連の受賞がいくつも重なったこともあり、合同の受賞祝賀パーティが6月24日、熊本市内のニュースカイホテルで開催された。会場には福島県知事、宮崎小国町長、発起人代表の堀内清治氏をはじめ、各方面から約400名が出席、それぞれの受賞を盛大に祝った。

「芦北は日本のエーゲ海だ!」＜芦北青少年の家＞

ギリシア出身の建築家エリア・ゼンゲリスは建設予定地に立ってそう叫んだ。
エレーニ・ジガンテス（インド出身）とエリア・ゼンゲリス、そして日本側で協同する鈴木了二、島村氏らを迎えて、2日にわたる現地調査を経て、芦北青少年の家の設計は進んでいる。
海にせり出す急峻な敷地であるため、複数の施設をどう配置するかが計画のポイントだ。
稜線を削り取らないこと、外部から見たときに建物が大きく見えないことなど、景観を活かした配置案が練られている。
ところで、ジガンテスの御祖父は、昨年福島知事も訪問したロードス島の知事だとのこと。またイギリス方の祖父はラフカディオ・ハーン（旧五高）の友人だったとのこと。熊本との由緒の深さにあらためて一同驚いた。

鈴木了二氏（中央）と
エレーニ・ジガンテス氏（左）、
エリア・ゼンゲリス氏（右）

福島知事と懇談するジガンテス氏ら

くまもとアートポリス・プロジェクトガイド

**くまもとアートポリスのこれまでに竣工・完了したプロジェクト、
そして現在進行中のプロジェクトを一堂に集めました。
竣工プロジェクトには、これから作品を見に行かれる方のために
住所などのデータを掲載しました。巻末の地図と併せてご利用ください。**

凡例
番号　プロジェクト名
設計者…主な用途…竣工年月
住所…行き方…開館時間、休日、入場料など…連絡先

1　熊本北警察署
篠原一男＋太宏設計事務所…警察署…9010
熊本市草葉町5-13…熊本交通センターからバス「白川公園前」下車…内部見学、写真撮影は要許可、バス駐車不可…熊本北警察署警務課 096-323-0110

2　県営保田窪第一団地
山本理顕…集合住宅…9112
熊本市帯山1-28…熊本交通センターからバス「上保田窪」下車…外観のみ見学可、駐車不可、中庭は入れません

3　加久藤トンネル換気所
小山明＋パシフィックコンサルタンツ…トンネル換気施設…8908
熊本県人吉市大畑町、宮崎県えびの市東川北…国道221号線加久藤トンネル脇…外観のみ見学可

4　三角港フェリーターミナル
葉祥栄…旅客待合所…9003
三角町大字三角浦…JR三角駅前…7:30～19:30

5　八代市立博物館未来の森ミュージアム
伊東豊雄…博物館…9110
八代市西松江城町12-35…JR八代駅からバス「法務局・博物館前」下車…9:00～17:00…月休…入場300円（常設展）…0965-34-5555

6　熊本市花畑パークトイレ
大塚豊一…公衆トイレ…8910
熊本市花畑町…熊本交通センター前、花畑公園内…近隣に駐車場あり

7　熊本市上江津湖畔トイレ
日田兆…公衆トイレ…8905
熊本市神水本町16-11…JR熊本駅から市電「八丁馬場」下車

8　熊本市営新地団地A
早川邦彦…集合住宅…9107
熊本市清水町新地…熊本交通センターから新地団地行きバス「新地団地」下車…外観のみ見学可、駐車不可

9　熊本市営新地団地B
緒方理一郎…集合住宅…9203
熊本市清水町新地…熊本交通センターから新地団地行きバス「新地団地」下車…外観のみ見学可、駐車不可

10 熊本市営新地団地C
富永譲…集合住宅…9311
熊本市清水町新地…熊本交通センターから新地団地行きバス「新地団地」下車…外観のみ見学可、駐車不可

11 熊本市営新地団地D
西岡弘…集合住宅…一部竣工
熊本市清水町新地…熊本交通センターから新地団地行きバス「新地団地」下車…外観のみ見学可、駐車不可

12 熊本市営新地団地E
上田憲二郎…集合住宅…一部竣工
熊本市清水町新地…熊本交通センターから新地団地行きバス「新地団地」下車…外観のみ見学可、駐車不可

13 県道橋景観整備（基礎調査）
倉俣史朗＋高木富士川語1画事務所…完了

14 熊本市営託麻団地
坂本一成＋長谷川逸子＋松永安光…集合住宅…9404
熊本市新南部町33…熊本交通センターからバス「託麻団地入口」下車…外観のみ見学可、駐車不可

15 光のまちづくり（まちづくり構想）
岩崎敬＋瀬口英徳…構想完了
山鹿市

16 牛深ハイヤ大橋（工事中）
レンゾ・ピアノ＋ピーター・ライス＋岡部憲明＋マエダ…臨港道路
牛深市

17 県営帯山A団地（公開コンペ）
新納至門…集合住宅…9203
熊本市帯山1-23…熊本交通センターからバス「上保田窪」下車…外観のみ見学可、駐車不可

18 玉名市文化施設構想
豊田文生…構想完了
玉名市

19 湯の香橋
岸和郎…遊歩橋…9105
芦北郡芦北町湯浦…JR湯浦駅からバス「湯浦橋」下車…夜間照明19:00～22:00

20 清和文楽館
石井和紘…文楽劇場＋展示館…9203
上益城郡清和村大字大平原口152…熊本交通センターから馬見原行きバス「清和文楽村」下車…9:00～17:00…月休…入場400円（常設展）1200円（公演時）…定期公演：2・4日曜…0967-82-3001

21 県立装飾古墳館
安藤忠雄…歴史資料館…9203
鹿本郡鹿央町岩原3085…山鹿産交バスターミナルから車…9:30～17:00…月休…入場400円…0968-36-2151

22 球磨工業高校伝統建築実習棟
象設計集団…工業高校実習棟…9103
人吉市城本町800…JR人吉駅から徒歩…見学・写真撮影は要許可…0966-22-4189

23 鮎の瀬大橋（工事中）
大野美代子＋中央技術コンサルタンツ…橋梁
上益城郡矢部町

24 公園ファニチャーデザイン、同整備マニュアル（構想）
沖健次＋東京ランドスケープ研究所…完了

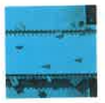
25 松島町合津終末処理場管理棟
斎藤宏…管理棟…9303
天草郡松島町大字合津4276-387…JR三角駅から松島行きバス「松島バスターミナル」下車…見学・写真撮影要許可…1969-56-3195

26 石打ダム管理所
青木茂…ダム管理事務所…9102
宇土郡三角町中村…JR石内ダム駅から徒歩1.5km…外観のみ見学可

27 県営新渡鹿団地
小宮山昭…集合住宅…9303
熊本市渡鹿3-854-1…熊本交通センターから戸島（一本木）行きバス「渡鹿7丁目」下車…外観のみ見学可、駐車不可

28 大津町第二庁舎・県民交流施設（構想）
鈴木了二…設計完了
大津町

29 玉名天望館
高崎正治…展望・学習コミュニティー室…9209
玉名市大倉字桃田1144…熊本交通センターから玉名、荒尾行きバス「玉名大橋口」下車…玉名市都市計画課 0968-75-1122



30 大甲橋景観整備（構想）
倉俣史朗…橋梁…設計完了

31 草地畜産研究所畜舎
トム・ヘネガン＋インガ・ダグフィンスドッター＋桜樹会・古川建築事務所…畜産研究施設畜舎…9209
阿蘇郡阿蘇町大字西湯浦…JR阿蘇駅より車…外観のみ見学可

32 再春館レディースレジデンス
妹島和世…女子社員寮…9108
熊本氏帯山4-323-1…熊本交通センターからバス「保田窪本町」下車…外観のみ見学可…再春館製薬所総務課 096-384-5555

33 県立美術館分館
エリアス・トーレス＋ホセ・A・M・ラベニア＋大和設計…美術館…9210
熊本市千葉城町2-2…9:30～18:30（土・日など17:00まで）…熊本交通センターから徒歩10分…月休…駐車不可…096-351-8411

34 湯前まんが美術館・公民館
桂英昭＋AIR…美術館＋公民館…9211
球磨郡湯前町字上牧原1834-1…くま川鉄道湯前駅から徒歩…9:00～17:00…月休…入場料：300円（大）100円（小中）…0966-43-2050

35 県営竜蛇平団地
元倉眞琴…集合住宅…9402
熊本市帯山3-1…熊本交通センターからバス「東水前寺」下車…外観のみ見学可、駐車不可

36 つなぎ物産ギャラリー・グリーンゲート
北山孝二郎…物産センター＋公園…9206
芦北郡津奈木町岩城1601…JR津奈木駅よりバス「竹中」下車…10:00～18:00…水休…道向かい文化センターに駐車場あり…0966-78-2000

37 教会の見えるチャペルの鐘展望公園
梅田正徳＋スペースデザイン…公園…9303
天草郡河浦町崎津…本渡バスセンターから牛深行きバス「一町田中央」下車、富岡行きに乗り換え「教会入口」下車…河浦町役場企画調整室 09697-6-1111

38 花の温泉館
ワークショップ…温泉センター＋温室…9312
阿蘇郡産山村大字田尻字下釜蓋…JR宮地駅から車…10:00～21:00…第1・3・5火休…入浴500円…0967-25-2341

39 TOTO AQUAPIT ASO（公共トイレ）
木島安史…公衆トイレ…9203
阿蘇郡白水村山上広場…阿蘇山ロープウェー阿蘇山西駅前

40 白川橋景観整備
藤江和子…橋梁…9211
熊本市二本木…JR熊本駅より徒歩

41 杖立橋（工事中）
新井清一…歩道橋＋公共広場
阿蘇郡小国町

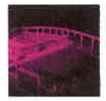
42 石打ダム資料館
入江経一…資料館…9304
宇土郡三角町中村字八久保…JR石内ダム駅から徒歩1.5km…9:00～17:00…月休…0964-54-1191

43 天草ビジターセンター・天草展望休憩所
古谷誠章＋中川建築設計事務所…博物展示施設・休憩所…9407
天草郡松島町永浦島…熊本交通センターから産交バス本渡行き快速で約100分「樋合入口」下車徒歩100m

44 うしぶか海彩館（工事中）
内藤廣…物品販売・展示・待合室・レストラン・視聴覚室など
牛深市牛深町

45 不知火町文化プラザ（設計中）
北川原温＋伊藤建築事務所…図書館・美術館・温水プール・広場
宇土郡不知火町

46 馬見原橋
青木淳＋中央技術コンサルタンツ…橋梁
阿蘇郡蘇陽町



47 天草工業高校実習棟（工事中）
室伏次郎＋SDA建築設計事務所…工業高校実習棟・体育館
本渡市

48 熊本北警察署坪井交番
マニュエル・タルディッツ＋加茂紀和子…交番…9503
熊本市坪井町

49 泉村ふれあいビジターセンター（工事中）
武田光史＋ロゴス設計同人…物産館・視聴覚センター
泉村

50 長洲港フェリーターミナル（工事中）
石田敏明…フェリーターミナル
玉名郡長洲町

51 荒尾警察署長洲交番（工事中）
塚本政利+設計機構ワークス…交番
玉名郡長洲町

52 県立芦北高少年の家（設計中）
エリア・ゼンゲリス+エレーニ・ジガンテス+鈴木了二+島村建築設計事務所…青少年教育施設
芦北郡芦北町

※なお、見学の際は、建物所有者、居住者および周辺の居住者に迷惑のかからないよう十分注意してください